

# 5段階の警戒レベル

## ■ 防災情報の基準となる「5段階の警戒レベル」

災害時に取るべき行動を直感的に理解できるように、自治体や気象庁等が発表する防災情報は、内閣府(防災担当)が定めた5段階の警戒レベルを明記することとなっています。

気象庁のキキクルにおける赤色の警戒表示や、気象に関する発表における警戒情報は、高齢者等の方が危険な場所から避難が必要とされる警戒レベル3に相当していますので、市の高齢者等避難の発表を待たずに避難の判断を行ってください。

避難情報(警戒レベル)		警戒レベルに相当する気象庁の情報の例			
警戒レベル状況	住民がとるべき行動	避難情報等	キキクル	洪水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
<b>5</b> 災害発生 または 切迫	<b>命の危険 直ちに 安全確保!</b>	<b>緊急 安全確保</b> ※1	<b>災害 切迫</b>	<b>氾濫 発生情報</b>	<b>大雨 特別警報 (土砂災害)</b>
<b>警戒レベル4までに必ず避難!</b>					
<b>4</b> 災害の おそれ 高い	<b>危険な場所から 全員避難</b>	<b>避難指示</b>	<b>危険</b>	<b>氾濫 危険情報</b>	<b>土砂災害 警戒情報</b>
<b>3</b> 災害の おそれ あり	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b> ●避難に時間のかかる要配慮者 (高齢者・障がい者・乳幼児等) とその支援者は避難 ●高齢者等以外の方も危険を感じたら自主的に避難	<b>高齢者等 避難</b> ※2	<b>警戒</b>	<b>氾濫 警戒情報 洪水警報</b>	<b>大雨警報</b>
<b>2</b> 気象状況 悪化	<b>自らの避難 行動を確認</b>	<b>大雨注意報 洪水注意報</b>	<b>注意</b>	<b>氾濫 注意情報</b>	—
<b>1</b> 今後 気象状況 悪化のおそれ	<b>災害への心構えを 高めましょう</b>	<b>早期 注意情報</b>	—	—	—

※1 市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の方も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません!

警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障がいのある方は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

# 避難行動判定フロー

## ■ フローを使ってご自身の避難行動と避難指示等の関係を確認しておきましょう

避難指示が出る前に自主避難ができなかったとしても、少なくとも災害から命を守ることができるように、避難指示が出た際の行動を確認しておきましょう。

「自らの命は自らが守る」という意識をもって必ず取り組みましょう

